

午後 I 試験

問 1

問 1 では、データ連携システムを例にとり、機能定義や機能設計について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 では、複数の業務システムからデータを受領する新システムにおける、請求コードに関する設計で考察すべきポイントを問うたが、システムコードに関する解答が散見された。設問として求めている内容を理解して解答してほしい。

設問 4(2)は、業務機能の追加が新システムの機能設計に与える影響を考察する設問であった。機能については、正答率が高かったが、変更内容の記述がない解答が散見された。業務要件と機能設計を関連付けて理解・把握して解答してほしい。

システムアーキテクトとして、業務要件を十分に理解した上で、それを実現するシステムの機能設計が行えるように心掛けてほしい。

問 2

問 2 では、飲料販売会社を例にとり、業務とシステムの移行について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 2(1)は、並行運用期間中、本社が現行システムと新システムに同じデータを入力し続ける必要がある理由を問うた。“互換性”、“整合性”の記述はあるが、“現行システム”と“新システム”、“本社システム”と“営業所システム”の区別のついていない解答が散見された。

設問 3(1)は、移行方法の説明の際に営業部門から指摘された業務上の問題への対策について問うたが、想定している移行手順を理解できていないと思われる解答が多く見受けられた。また、締日が、例としてあげた 20 日と月末しかないと思ひこんだと想定される解答も散見された。

設問 3(2)は、移行期間中だけの制限事項について、その内容と理由を問うたが、移行終了後の業務の変更点と誤解したと想定される解答が多かった。問題文をよく読んで、現行業務の内容、現在の移行手順、移行計画の全体の内容を理解して解答してほしい。

システムアーキテクトとして、業務とシステムの移行計画を立案・説明・実行・評価できるように心掛けてほしい。

問 3

問 3 では、業務委託管理システムの導入を例にとり、情報システムの設計について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 は、(1)は正答率が高く、(3)は正答率が低かった。(3)では、“D 社が差し戻したときは電子メールが送信されない”、“新システムでも書類を郵送して時間が掛かっている”などと勘違いしたと想定される解答が多く見受けられた。これは、問題文の理解不足と思われる。

設問 2(1)は、全体として正答率が高かったが、e を“納品待ち”と誤って解答した受験者が多かった。次に来るイベントが D 社の“注文請確認”という行為であることに気付けば解答できるはずである。

設問 3(2)では、見積履歴番号の設定について問うたが、正答率が低かった。“納期が変更になった場合”、“見積条件が変わった場合”などの解答があったが、納期や見積条件が変わる場合は、新たな案件番号が付与され、見積依頼も別レコードとなることに気付いてほしかった。

また、本問では、“どのようなケースか”と問う設問が二つあった。これに対して目的や理由を答えたものが目立ったが、設問の文章をよく読んで何を問うているかを確認すれば、防ぐことができた誤りであった。

システムアーキテクトとして、システム要件を十分に理解した上で、適切な処理設計、ファイル設計が行えるように心掛けてほしい。

問 4

問 4 では、災害監視用小型無人航空機システムを例にとり、システムアーキテクチャの決定、機能仕様の策定について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 1(2)では、防災センタから監視カメラを操作できるようにすることの利点を問うたが、“情報を共有できるようになる”との解答が散見された。防災センタでも映像を見ることができると情報共有が行われており、監視カメラを操作できることで得られる利点を解答してもらいたかった。

設問 3(2)では、操縦用にカメラを追加することが困難と判断した無線データ通信の制約について問うたが、“見通せる範囲での通信”、“5km の範囲での通信”などの解答が散見された。無線データ通信の伝送速度の制約を問題文から読み取ってほしかった。

設問 4(1)では、遠隔操縦中の無人機が着陸地点までの最短経路を生成できない理由を問うたが、“ウェイポイント情報を保持していないから”との解答が見られた。設問の文章を理解して解答してほしかった。

システムアーキテクトとして、システム要件をよく理解して、仕様策定が行えるよう心掛けてほしい。